

寝られなかったことがあります。

一方、自然の中で楽しんでいると人工の物がよく目に付きます。大抵は必要なものなのでしょうが、中には本当に必要なのか疑問を持つものもあります。日本人の性格なのか、何かいじらないといられないようで、不必要、またはあきらかにやりすぎなものを見つけては寂しくなります。

以前、あるテレビの特集でアメリカの治水、利水は陸軍工兵隊の役目であり、住民への説明ではその地域にあつたいくつかの工事の案の他に必ず「何もしない」という項目が入っており、投票によって決めるそうです。住人を大切に考えていることを感じます。産業で世界のトップに立った日本が少しでも早く環境先進国の中間入りすることを願ってやみません。

話は飛躍しますが、今原発廃炉がしきりに叫ばれています。同じように自然に与える影響の大きいダムの撤去を訴える人が出てくるのは何時になるのでしょうか。活断層の上にあるダムがあるとわかったとき、国はどう判断するのでしょうか。

私は自然保護活動をしていません。会費だけ納めるだけの会員です。会誌を通して協会が取り組んでいる様々な問題があることを知ることができました。それに対し真剣に取り組んでいる皆様に敬意を払うとともに一層のご活動をご期待申し上げます。

環境について思うこと

坂井 健
(札幌市)

幼少から父親の影響で川や湖へ釣りにいきます。魚を釣りに自然の中へ入っていくことになるのですが、そこでは色々な動物や美しい風景との出会いがあります。

静かにして川の様子を伺っているとクロテンが上流から泳いできて私のそばで初めて私に気づきあわてて逃げて行く様子や、すぐ頭上にエゾリスが来たりという光景に心が和んだり、行きにはなかった熊の足跡を見つけた時や、藪の中でバキバキと響く音に驚き、あるときは見事な角のエゾシカが2頭、目の前を走り去っていく勇猛な姿に畏敬の念を感じたこともあります。釣りに出かけると意外と野生の動物に出会うことができるのです。冬は雪に残る野性の足跡で森の住人たちの様子がわかります。意外と賑やかで驚きます。また、早朝の朝焼けに染まる屈斜路湖ではあまりの美しさに竿を振るのをやめて景色を堪能したこともあります。しかし、植村直己さん、星野道夫さんらのエキスパートが命を落としたのも自然の中でした。美しいが、その一方で厳しいのが自然ですね。森の中で動物の屍を見つけたときは油断しないよう気が引き締まります。

余談になりますが、以前、強風の森の中で車中泊をしたとき、森の木が動く様子を見ているとともに恐ろしく、「妖怪」は確実に存在すると感じ、